



養 監 第 5 0 号
令和元年 11 月 29 日

養父市長 広瀬 栄 様

養父市監査委員 守 本 英 昭

養父市監査委員 藤 原 芳 巳

定期監査の結果報告

地方自治法第 199 条第 4 項の規定に基づき、令和元年度定期監査を実施したので、同条第 9 項の規定により報告する。

記

1 監査の期間

令和元年 10 月 23 日から令和元年 11 月 25 日まで

2 監査の対象及び範囲

企画総務部・危機管理室・市民生活部・健康福祉部・産業環境部・まち整備部・会計課・議会事務局及び教育部の令和元年度上半期の財務に関する事務の執行及び経営に係る事業の管理状況

3 監査の要領

地方自治法第 2 条の規定に基づき、市の事務事業が効率的かつ効果的に執行及び管理されているかに留意した。

監査の重点項目として、収納対策事務については、効率的に収納事務が行われているかについて監査を実施した。

予算の執行状況、主要事業・新規施策の取組状況、工事・業務の進捗状況、組織及び業務内容・財産管理事務等について関係資料及び書類等の提出を求め、関係職員から説明を聴取した。

また、工事関係等の現地調査を実施した。

4 監査の結果

監査の結果、おおむね良好に執行されているものと認めた。

次のとおり重点項目及び各部局における主要・新規施策等に対し意見を付して報告する。

監査意見

1 定員管理計画について

令和元年度策定の定員管理計画では、平成31年度当初の職員数293人を5年間で計画的、段階的に減らし、令和6年度当初には275人にすることを目標としている。

一方で、近年は台風や記録的な豪雨により、多くの地域で大規模な自然災害が発生しており、想定を超える災害に備えて行政の役割は増大している。

今後も、自然災害が発生するリスクに対応し、住民の安心・安全な生活の確保に支障が出ないように、適正な定員管理に努められたい。

2 地域公共会社について

3年間の期限付きとしていた地域公共会社（やぶパートナーズ株式会社）に対する年間2,400万円の経営委託料が令和元年度で終了する。

企業・起業支援、商品開発支援、販路開拓支援、地域おこし協力隊管理業務、ふるさと納税業務など、多くの事業を行い実績も上げているが、長期負債の残高も残っている。

地域公共会社が、養父市創生に資する活動を続けられるよう、今後の在り方について、同社との協議を早急に進められたい。

3 上半期の収納状況について

令和元年9月末の収納状況を見ると、調定額4,363,048千円（現年及び滞納繰越含む）に対し収入済額は2,463,577千円（同）で収納率56.46%と概ね順調に推移している。

今後は12月を中心とする「未収金徴収強化月間」を実施し、徴収を強化する計画であるが、税の公平性及び自主財源の確保を図るために着実に成果につなげ、年度末には目標額を達成するよう努められたい。

4 防災・災害対策について

防災・災害対策については、防災マップの更新、避難場所の看板設置、告知システムの保守・管理、防災訓練など着々と計画が進められている。

しかし、昨今の想定を超えた風水害を見るにつけ、養父市でも住民の避難については覚悟を持って取り組む必要がある。

具体的には、一時避難について、場所は決められているものの、実際の収容

能力や滞在環境など、高齢者や子ども等弱者を含めた避難所対応について、区ごとの細部にわたる現実的な計画が必要である。

地域に避難時のマニュアルを示し、共助を前提とした区の役割と市の後方支援との位置づけを明確にされたい。

5 おおやアート村拠点施設管理事業について

おおやアート村構想推進のための拠点施設「BIG LABO」については、施設の機能や魅力を生かし更なる有効活用を図るために、市直営から指定管理施設への移行を目指している。

しかしながら、施設の老朽化や収益性、協働で事業を進めるNPO法人の運営体制など、指定管理に向けて多くの課題が生じている。

令和元年4月から9月までの利用実績は、昨年と比較し、展示場の入館者・入館料、創作棟の利用者・使用料とも減少しており、状況はさらに厳しくなっている。

当施設は養父市への移住・定住に資する重要な位置づけにあることから、今後は、他の施設や施策と連携し活用拡大を図られたい。

6 文化事業の再編とホール施設の維持管理について

養父市の新しい文化会館ホールが着工の運びとなった。

令和3年9月にオープンの予定であるが、今まで4つのホールで行ってきたイベントやコンサートの全てを引き継ぐことは現実的ではない。

一方で、老朽化により多額の施設・設備の修繕が顕著になる3つのホールの維持・管理を今後どこまで行うかも課題である。

社会教育施設の拠点としての各ホールにおける文化事業の再編について、関係者との協議を始めるとともに、公共施設総合管理計画及び個別施設計画において、老朽化が進む3つのホールの維持管理計画の検討を適切に進められたい。

7 ワールドマスターズゲームズ2021 関西について

WMG2021 関西（オリエンテーリング競技フォレスト種目）の開催が近づいている。参加者等、外国人旅行者の受入体制の整備について、関係自治体（香美町・神河町・兵庫県）の中では養父市が積極的にイニシアティブをとるべき立場にある。

期限が切られた時限的な事業であるが、事後のレガシィとして養父市のインバウンド対策の基礎を作る事業でもある。専門の職員を配置しマンパワーを充実する中で、プロジェクトチームなどのしっかりとした体制を作り、競技の成功はもとより外国人旅行者に再訪していただける魅力と環境を整備されたい。